

重要文化財大安寺本堂ほか7棟 保存修理事業の経過報告

▶▶▶ 本堂の組立工事が進んでいます

揚屋工事が終わった本堂では、これから数年かけて組立工事が進んでいきます。今は揚屋工事で持ち上げていた柱などの軸部の傾きなどを修正したり、解体した建築当初の古材を補修したりしているところです。

柱の傾きなどを修正しました

揚屋工事では、柱や梁などの軸部を持ち上げて基礎工事を行っていました。建物を下ろした後は、柱の傾きや柱同士の距離などを正しい位置に戻す作業を行いました。

本堂はシロアリ被害などによる柱の痛みや長年の地盤沈下の影響によって、建具が歪むほどの傾きがありました。柱の痛みは補修、傾きも修正し、柱同士が正しい位置になるように修正しました。



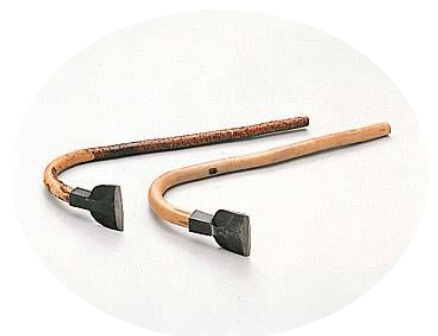
梁の補修をしました

屋根を支える大きな梁も、虫害などで傷んでいるところがあり、今回の修理で新たに取替えました。



傷みのため新しく取り替える木材は、もとの古材の形状に合わせて、今ではあまり見られなくなったちょうな手斧と呼ばれる昔ながらの道具も使いながら加工しています。

手斧



原寸大の図面を起こしています



本堂の屋根は、建築当時の形である茅葺とこけら葺の二重構造に復原することが決まっています。

現状には残っていない箇所を新たに復原するため、原寸大の図面を起こし古材と組み合わせて、実際に部材を組み立てた時に問題が無いかどうかを確認しています。

耐震補強工事も行っています

組立工事と並行して、耐震補強工事も行っています。正しい位置に修正した軸部を固定するとともに、地震の時に各部がばらばらに揺れることがないように部材の形状に合わせて補強材を取り付けています。



今後の工事予定

今後も引き続き、本堂の組立工事が進んでいきます。耐震補強材の取り付けや木材の補修は引き続き進めます。また、今後は一旦解体した玄関の組立工事も始めていきます。

情報発信しています

これまでの工事経過はこの季刊報告書の他にも動画やパンフレットなど、様々な媒体で情報発信しています。ぜひご覧ください。



タブロイド Vol.1

発行しました

今回の修理工事を通して見えてきた歴史をより身近に感じられる内容です。(隔年発行予定)

設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会（東京都荒川区）

工事請負：松浦建設株式会社（石川県能美市）

